奈良市民だより
No. 313

奈良市民憲章

奈良は日本のふるさと。美しい自然とすぐれた文化遺産を守り、古都に住むものにふさわしい自覚と誇りに生きましょう。

奈良は未来をひらくまち。青少年は健康で、はつらつと、正しく強い人間になりましょう。

奈良は善意のまち。みんなのしあわせのために、おたがいに助けあいましょう。

奈良は清潔で平和なまち。旅行者にはあたたかく親切に接しましょう。

奈良はのびゆくまち。市民の創意で、傳統と調和のとれた新しい住みよいまちづくりをしましょう。

市民のうごき
（1月15日現在）

		前月比増
人口	249,935人	（438）
男	121,589	（256）
女	128,346	（182）
世帯数	77,339	（124）

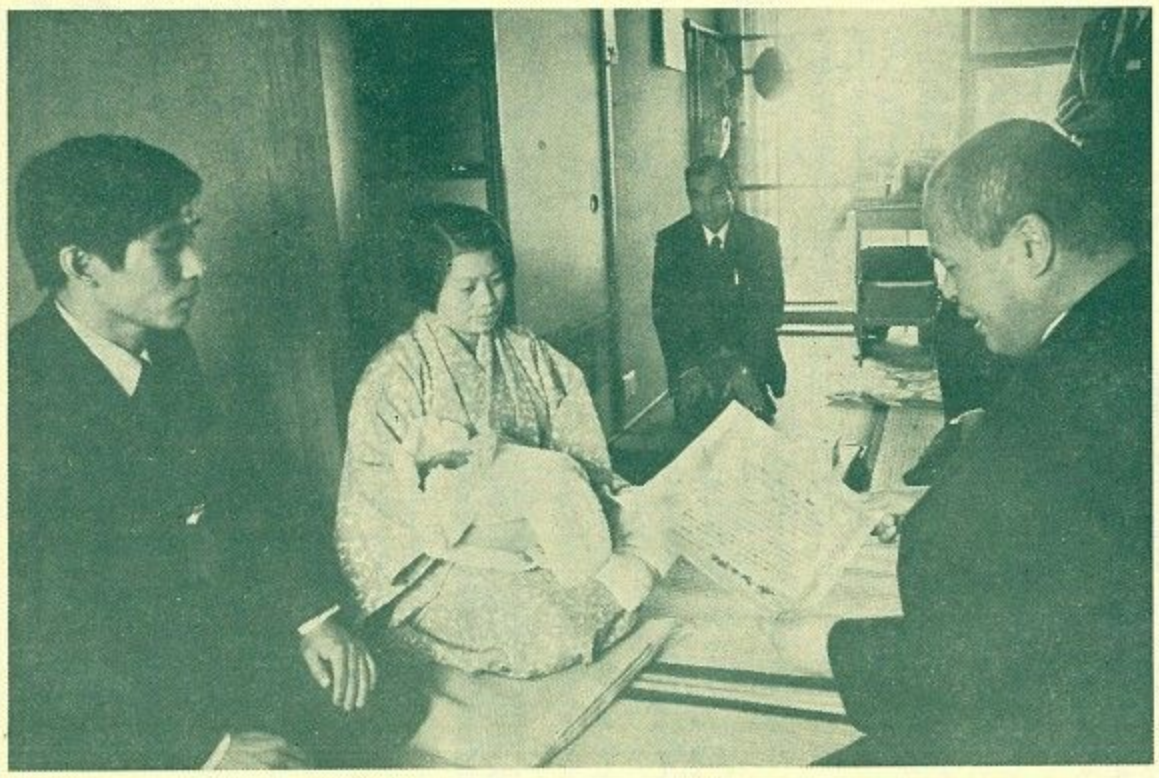
新平城京へ 1200年ぶり25万人口に

市制77年目！

花咲く天平の盛時を再び

奈良市の人口は一月二十日ついに二十五万人を突破しました。市役所市民課の登録による二十五万人目の受け付けは同日午後一時五十分。

奈良市は市制施行以来七十七年、平城京の最盛期以来実に千二百余年ぶりに二十五万人口に達したわけです。奈良市はいま、この歴史の輪廻（りんね）によって、昔の繁栄を再びとりもどし、かおり高い天平文化の花をここに結実させる時機を迎えたのです。



25万人目の悟志君を鍵田市長がお祝い

この日、二十五万人目の奈良市民として幸運の登録をしたのは東紀寺町三丁目三番一四六号、皇宮護衛官藤原彰紀さん（31歳）淑子さん（31歳）夫妻の三男悟志（さとし）ちゃんで、一月十日の生まれ。

市ではこれを記念して、鍵田市長から二十五万人目の悟志ちゃんに記念証書とすずり箱、記念アルバム、記念手帳、月桂樹の苗木を贈りました。また、その一人前登録の北市南町、薬師寺健児さん（27歳）喜代美さん（27歳）夫妻の二男創太郎ちゃん（一月六日生まれ）と、二十五万一人目のあやめ池南一丁目、米井康雄さん（27歳）優子さん（25歳）夫妻の長男健一ちゃん（一月十三日生まれ）にも〝前後賞〟として、記念証書をのぞくほかの同じ記念品を贈りました。

悟志君に記念品

鍵田市長は二十五万人目の市民となった悟志ちゃんを、一月二十二日午前十時半、東紀寺町の藤原家にたずねました。母親淑子さんに抱かれた悟志ちゃんは丸々と太って健康そのもの。鍵田市長は「どうもおめでとう。奈良市は美しい自然と古い歴史につつまれたまちです。このまちをふる里として生まれたこの子の前途には限りない未来がありますよ。健康で明るく伸び伸びと力強く育ててください」とお祝いを述べ、記念品を贈りました。

このあと、鍵田市長と彰紀さん、悟志ちゃんの兄雅樹君（5歳）、直哉君（3歳）ら四人で裏庭に月桂樹を記念植樹して誕生を祝いました。

長い足どり

ついに奈良市の人口は二十五万人に達しました。これは全国六百四十三市のうち六十一番目（一月二十日現在）にあたり、中堅都市として将来の成長を遂げるべき飛躍点に立ったことになります。

平城京の昔、奈良の都の人口は地方から働きにきていた役民（えきみん）を含めて約二十五万と推定されており、いま千二百余年ぶりに往時の人口規模にもどったといえるわけで、長い歴史の流れを感じさせられます。唐の都長安にならって都市計画を行なった平城京は、東西四・二〝、南北四・七〝の長方形で、そのほぼ中央を南北に走る朱雀大路を中心に、大路と小路によって整然と区画された条坊制であったといわれます。その後、現在の旧市街地にあたる京城の東のはしを外京としてつけ加えられ、奈良のまちは戦前までこの外京を中心に命脈を保ってきました。

戦後、町村合併促進法にうながされて、隣接町村をつぎつぎと合併、昭和三十二年（一九五七年）になって市域も二一一・九一平方〝に及ぶ現在の広さとなり、人口も十二万九千六百二十三人と増加しました。これと相前後して旧平城京の右京にあたる西大寺周辺や、さらに右京区域をこえた学園地区に住宅開発が急ピッチで進み、人口が年間ほぼ一万人の割で飛躍的に伸びるようになりました。このようにして、奈良のまちは千二百年ぶりに再び人口二十五万人となり、大奈良市として、大きく咲いた天平文化の花をここに結実させる時を迎えることになりました。

二十万人目の隆二くん（すくすく）

去る四十四年七月一日、二十万人目の奈良市民として登録した六条西町一丁目、藤村松雄氏二男隆二くん（六月二十日生れ）はいまでは五歳。毎日元気に六条幼稚園へ通っています。入園以来一日も休まず、幼稚園でもみんなの人気者。母親の美恵子さんも「意志の強いところがあって、自分の決めたことはなかなか曲げません。病気らしい病気もせず健康でほんとに喜んでいます」と語っていますが、大きく発展する奈良市とともに、二十万人目の奈良市民はこうしてすくすくとたくましく成長しています。

写真は六条幼稚園で元気に遊ぶ隆二君

二十五万都市誕生にあたって

奈良市長　鍵田忠三郎

私たちの奈良市の人口がついに二十五万人に達しました。これは千二百年ぶりに歴史のくり返しによるものであります。

昔、平城京の人口はその周辺を含めたとき、二十五万人ぐらいあったといわれています。そのころの奈良は長安（現在の西安市）と結び、その文化を導入し、天平文化の大きな花を咲かせました。

いままた、人口も昔にかえり二十五万となり、西安市と結び、歴史の示すところにより大きな文化の花を咲かせるときがきたのです。中国との友好交流も千二百年ぶりに盛んとなり、奈良市は「近者よろこび遠者きたる」の理想郷建設を目標に、「すべて市民本位に」「すべて計画的に」「すべて夢をもって」の三本柱により施策を進めています。

ことしは、とくに日本民族全体が敗戦からの無反省なる政治・経済が壁にぶつかり、総反省するときがきたと思います。この際われわれは歴史を直視し、国際的な視野に立ち、日本のかつての首都であり国民の心のふる里である奈良は、道義のまちとして健全なる道を歩み、市民の誇りをもっての幸福感とともに、安らぎと夢を全国民に示すため、高く灯を点じ立ちあがらねばなりません。二十五万人口に達したいま、とくにそのようなことを奈良市長として古都奈良の使命感を覚えます。

ことしの奈良市は開拓精神をもって「安らぎと夢のある道義のまちづくり」を掲げ、そのようなまちづくりをすべく、二千五百人の職員ともども精進努力をしたいと念じております。

発行＝奈良市役所（奈良市東寺林町38）電話（24）1111番　〒630　毎月1日・15日発行　全戸配布　　印刷＝共同精版印刷株式会社

『はたちの願い』を語る

ことし奈良市で成人式を迎えた若人は男性千五百三十八人、女性二千二百十六人で合計三千七百五十四人。この新しく大人の仲間入りする新成人たちがなにを考え、なにを求め、また、市政になにを望んでいるかを鍵田市長とひざを交えて大いに語ってもらおうと、奈良市では成人式のあと新成人の代表六人に集まってもらい座談会を開きました。

北尾義夫広報公聴課長の司会ですすめられたこの座談会は、話が大いにはずみ、人生の先輩である鍵田市長からアドバイスを受けながら、出席者それぞれが成人としての覚悟などを話し合いました。会場は市中央体育館貴賓室。

鍵田市長を囲む座談会

開拓精神持とう
成人の日に誓願立てて

鍵田市長と活発に語る新成人

司会　成人式おめでとうございます。きょう成人式を迎えられて、皆さんがたはそれぞれ覚悟なり希望なりをお持ちになっておられると思いますが、そのことなり市政について、〝二十歳の願い〟といったことを自由にお話し合い願いたいと思います。まず、人生の先輩として市長さんからなにかひとこと。

鍵田市長　いろんな話を聞いても忘れてしまうものでね。あとで考えてみてもおぼえていることは至って少ないし、きょう成人式でも、皆さんにこういう考え方をもってほしいと一生懸命にしゃべったんですが、少しはわかっていただいたでしょうかね。

ぼくはいつも言うんですけど、ぼくが二十歳の時に自分に約束したことがあります。それは「生涯どんな苦しいことに出会っても、まいったといわないぞ」ということで、それをいまだに通しております。われわれはね、いろんなことを神さまなり仏さまなりと約束するんです。それを誓願といいます。昔の人はいろんなことを誓願して、それを果たすための努力をしたものです。諸君も二十歳になったこの時に、生涯これだけは守り通そうということをなにか決めていただいたら結構だと思います。ぼくは、みんなに言うときには「開拓精神」を持ってほしい、無から有を生ずる開拓精神、これがあれば人間なんでもできますから、これを持ってほしいとお願いしとるんですよ。

それから、奈良は素晴らしいまちなんです。歴史の集積されたまちなんです。その奈良のまちの良さを見直してほしいと、成人に達した諸君にお願いしとるんです。日本民族のいのちがいっぱい集まっているのが奈良のまちです。このまちのいのちを守って子孫に伝えていかなくちゃならん。それを皆さんも、きょうから大人として協力してもらいたい。諸君は奈良市政に責任を持ってもらわねばなりません。選挙権行使を通じて奈良市政に責任をもってほしいと思います。いずれにしても、きょうのこの日が、あとになって意義があったと思い起こせるような日にしてほしいと思います。

新成人出席者（順不同）

西浦利治君（丹生町、東部農協職員）
福中健一君（大安寺町、桃山学院大学生）
米浪正嗣君（北半田西町、関西学院大学生）
百瀬美鈴さん（南京終町1丁目、河合美術織物勤務）
大東匡子さん（和田町、大谷女子大学生）
高島志津子さん（学園北2丁目、京都仏教大学生）

「奈良市民」の自覚
社会への責任果たし自主性の確立めざす

司会　いま、人生の先輩として市長さんから皆さんに期待する話がありましたが、それではつぎに二十歳になって皆さんが考えておられることを……。

百瀬美鈴さん　実は私「二十歳になった、大人になった」という自覚がまだわいてこないんです。こういうのはやっぱり自分で自覚するようにしなければならないんでしょうね。

市長　大人になったんだから、やっぱり自覚してもらわにゃ。たとえば、きょうから一時間早く起きることを決心してごらん。そしたら朝の一時間なにかを考える。大人としての考えが生まれてくるでしょう。それが大事なんだ。

米浪正嗣君　ぼくはまだ学生だし、社会に出てみないとわかりませんがとにかくしっかりと世の中に対して目を向けなければならないと思うんです。学生だからといってマージャンばかりやってないで、もっと社会のことに目を向けなければならないと思っています。

大東匡子さん　いままでは、奈良市民である両親にくっついていて独立していなかったように思います。でも、今年からは選挙権もあるしほんとうの意味での奈良市民にならなければと思います。私の学校の誓願に「理想は高く、行為は謙虚に」とあるんですけれど、私もそのことをモットーにしていきたいと考えています。

福中健一君　まだ学生なので社会人としての自覚はないんです。社会に出てからそれは徐々にしみてくると思いますけれど、いままで奈良に住んでいながら奈良市民としての自覚は持っていなかったんです。これを機会に「自分は奈良市民である」という自覚をもっていきたいと思うようになりました。

高島志津子さん　私もまだ学生ですし、学生というのは中途半端な時期だといわれますが、そんな点もあって、今のところ自分がどんなことをやったらよいのか迷っているんです。私は二十歳の誕生日を迎えるまでに余裕がありますので、その間に考えていきたいと思っています。ほんとうに大人になったことを自覚するには、自分の生活を自分で保障するようにならなければ無理ではないかと思いますが、私がいま勉強している歴史を通して、そんな面から自分の回りをみつめていきたいと思っています。

西浦利治君　自主性をもってすべてをやっていきたいと考えています　仕事の面でもいままでは上司の命令どおり動いていただけでしたが、もう二十歳にもなることだし、自分で物事を判断し、自主性を持たなければならないと思っています。

市長　大事なことですね。自主的に判断し行動を起こすということは、自分で考えて自分で仕事をする。それも人のためにするというのが大人の態度でしょうね。自主的にやるといっても、自分のためにやるのではダメです。人さまのためにやる、しかも一切私をすてて人のために奉仕するということをやってごらんなさい。その時にこそ、はじめて大人になったという自覚が生まれてくるでしょうね。

国際的友好に羽ばたけ
奈良市の前途洋々

司会　奈良市についてなにか……。

百瀬さん　奈良市は、外国の都市と友好関係を結んでいろいろ交流をすすめておられますが、ひじょうに良いことだと思います。

私たちは外国へ出てはじめて日本の良さがわかると思うんです。私、昨年韓国へ行ってきたんですが、その時「日本人、日本の国は良いなあ」としみじみ感じました。

市長　確かにそうですね。奈良と姉妹都市を結んでいる慶州へ行ったんですか。

百瀬さん　ソウルへ行ったんです。慶州は行けなかったんです。

市長　ソウルは今の首都だけど、その昔千年の首都があった慶州へ行かれると韓国の良さを感じますよ。いずれにしても、二十歳ぐらいで外国へ出て、日本の良さがわかるというのはよいことです。日本では奈良がふる里ですからね。そういう素晴らしい奈良のまち、いま住んでいる奈良のまちを愛してほしい。

米浪君　奈良は田舎だと思っていたんですが、今は人口の増加がはげしいですね。この調子でふえると、市長さんがいっておられる三十五万都市にすぐなるんじゃないかと、関心をもっているんです。ただ大阪のベッドタウンとして、人口だけが多いという都市じゃなくて、奈良市にはもっと大きなことを期待したいですね。たとえば、こんど人口が奈良市の十倍もある西安市と姉妹都市を結ばれましたが、そんな大きな国際親善のようなものを……。

市長　西安市との友好は奈良のもつ歴史的使命でもあるしね。大いにやっていきたいと思いますよ。あなたにも参加してほしい。早く卒業しなさいよ。（笑）

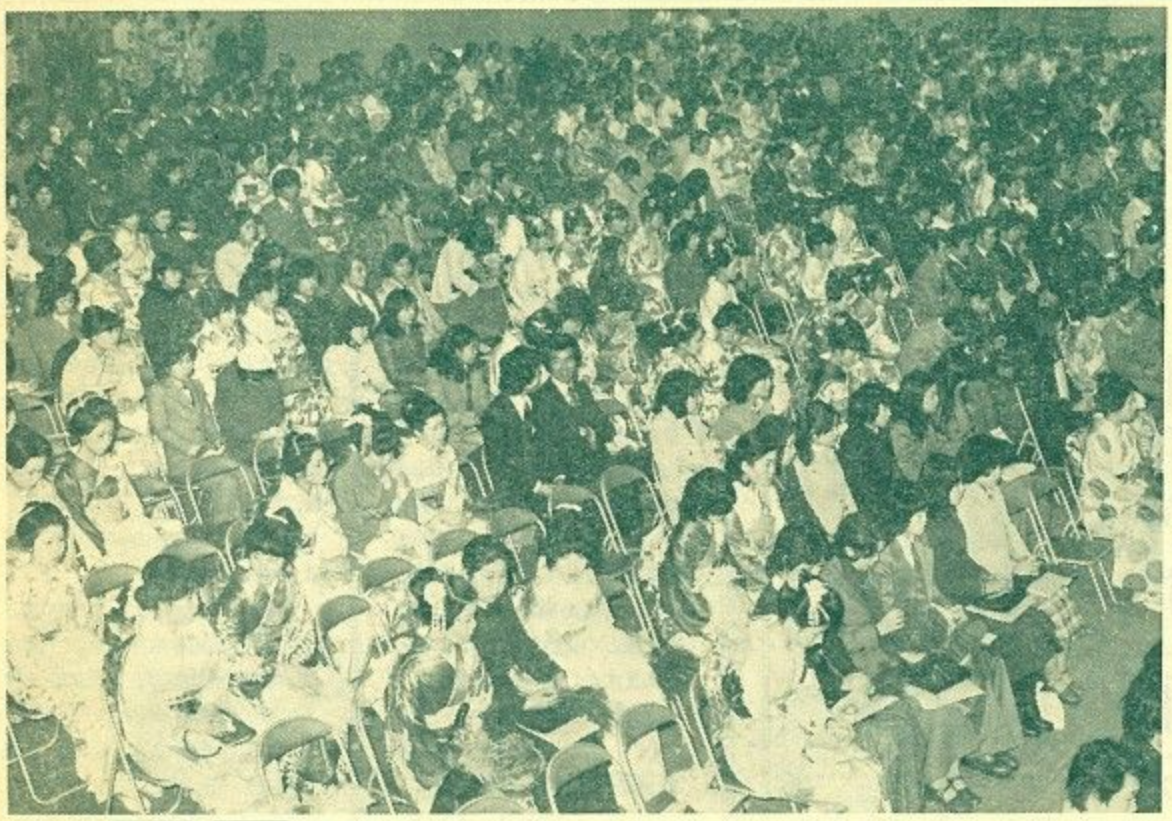
大東さん　奈良市は「日本一火事の少ないまち」とか、日本一なんとかといったように、なんでも目的をもって大きな目標をめざしてやっている。そういうところに私は強くひかれるものがあります。それから「ごくろうさん運動」のように、ごく身近に感じられる運動をやっておられますが、こういうことはこれからも続けてほしいと思います。

西浦君　ぼくは、奈良は古いことも大切にしていくし、また新しいこともみつめていく都市だと思います。古いことといえば「歴史の道」をつくったり、新しいことといえば外国の都市と友好交流を深めていくというようなことだと思います。

福中君　去年の夏、北海道の摩周湖へ行って感じたことですが、湖面はとてもきれいですが、下の方はゴミだらけでひじょうに残念に思いました。奈良は日本のふる里だし、大阪を中心とする大都市圏の物質文明に傷ついた人たちが心をいやしに来るんです。それだけに奈良では住んでいる人たちがゴミを出さないように自覚して、まちを美しくしなければとの思いを深くします。

以下三の面へ

胸張っていま大人の世界へ



成人式　晴やかに2,500人が参加

ことし満二十歳になる新成人を招いてお祝いする市の成人式が「成人の日」の一月十五日市中央体育館で行なわれ、新成人二千五百人が参加しました。

好天に恵まれ、女性の晴れ着参加が自粛の呼びかけにもかかわらずことしも目立ちました。受付けで記念品（成人手帳・黒マツの苗木・市のパンフレットなど）をもらって式にのぞみました。

鍵田市長が別項のように「新成人に贈ることば」を述べたあと、加藤市議会議長が「成人おめでとう。みなさん方の若々しい希望に満ちた前途洋々たる姿を拝見し、この姿こそ奈良市民の姿であってほしい、日本人の心であってほしいと思います。日本の現況をよく理解し、国家に、社会に奉仕する精神を発揮してください」とお祝いの言葉を述べました。つづいて高木まゆみさん（奈良交通勤務）ら代表四人が前に進み「市民憲章」を朗読、全員が唱和しました。

第二部では「スポーツにかけた私の青春」と題したスポーツ座談会があり、鍵田市長、全日本剣道連続優勝者千葉仁氏と同夫人勝美さん（旧姓松村＝ミュンヘン五輪大会全日本女子バレーボール主将）、岩原豊子さん（前ヤシカバレーボール主将）が、元NHKアナウンサー水越洋氏の司会で縦横に体験談を披露、若人に感銘を与えました。

会場ロビーでは、昨年につづいてふるさと電話が設置され、故郷へ成人になった喜びの声を故郷の両親や兄弟に伝える新成人でにぎわいました。

「革命」は「修行」

日々に新しい人づくり

市長　奈良のまちは、他の都市と違って民族のふる里ですから美しくせねばなりません。ことしからはね、ごくろうさん・早寝早起き運動だけじゃなしに、自分の家の前の清掃に責任をもつ運動を起こすんです。自分の家の前は顔みたいなものです。顔は毎朝洗いますね。それと同じように毎朝かどをきれいにしてもらう。家の前が広くてどうにもならんようでしたら、市の方へ電話してもらうと市がいつでも清掃に行く。市民みんなが自分の家の前をきれいにすると、奈良のまち全体がきれいになります。諸君も協力願いますよ。

高島さん　私が住んでいる場所は学園前で、はじめからベッドタウンとして発達したところですが、私、子どものころツクシをよく取りに行ったことをおぼえているんです。それも家の近所にタンポポもツクシもあったんです。ところが、いまでは家が建ってしまってそんなところがなくなってしまいました。小さな広場はあるんですけど、二～三歳の子が遊べる程度で、せめてキャッチボールが出来たり、自分たちで花をつくれるような場所がほしいですね。

市長　あなたのいうツクシなんかは今でも田原や柳生へ行けばいくらでもある。天はふたつながら与えることはない。便利と不便は常時いっしょにあるんだから、それはそれでしんぼうしてください。しかし花だけはつくれるようにしたいと思っています。

司会　この際、市長さんに聞きたいということがあればなんでもどうぞ……。

米浪君　中国は共産主義国家ですね。西安と友好親善を結ぶにあたって、そのへんを見習おうという気はありませんか。

市長　共産主義は見習いません。ただ中国の共産主義は民族共産主義でね。国際共産主義とはちがいます。その点はわかるし、中国では革命といったって、三歳ぐらいの子どもまでが「革命・革命」といってるんだ。この国は革命を成就して社会主義の国になっているのに、なにを革命するんだと聞いたらね、毎日革命に努力するんですと言うんです。それはどういうことかといったらね、要するに毎日自分の修行をすることなんです。革命して毎日自分を新しくして、立派な国家をつくっていくと言うんです。だから「革命」という言葉を「修行」と同じように使っているんですね。そうかと言っても、古いものはいっさい捨てている。仏教を否定し、儒教を否定している。孔子まで否定している。先祖なんかも大事にしていません。われわれは先祖を大事にしますから、そんなところは見習わなくてもよろしい。そんな点は日本のよいところを教える。しかし中国の良い点、たとえば泥棒がいないとか、掃除が行きとどいている点とか、人間が勤労、勤勉であるとか、そういうところを見習えばよい。

いずれにしても資本主義だの共産主義だのといっても、せいぜい百年から百五十年ぐらいで、歴史の中では小さな波ですよ。われわれは二千年歴史の友好の流れの中で、お互い友好都市提携をしていて、共産主義とか資本主義とかそういった小さな考えはお互いに捨ててつき合っているんです。

人につくすことが自分の幸せにつながる

市長

司会　最後に、市長さんからまとめをお願いします。

市長　神がわれわれに与えてくれた財産、それは忍耐と努力と健康であると私は思っています。この財産を全幅活用して立派な人になってもらいたいと思います。これに加えて英知というのも人間みんなに与えられています。英知というのは使っても使ってもなくならない。これをうんと使って社会のために尽くしてください。

大人になっての考えの大事なのは、人のために尽くした時に自分も救われるという考え方に立つことです。自分が救われたい。自分が幸福になりたい、という考え方は人間だれしも持っています。しかし大人の考え方は、人を幸福にすることによって自分も幸せになるという考え方です。これを広くすると、まち全体に奉仕する、国全体、民族ひいては人類に奉仕するということになるわけです。そういうことで諸君に努力をして健康で幸せな人生、立派な人生を送ってもらいたいと思います。

新成人におくる

奈良市長　鍵田忠三郎

諸君、成人式を迎えられておめでとう！

奈良市では三千七百五十四人がきょう成人式を迎えられたわけであります。人生においてこんなよろこばしいことはない。

成人式を迎えられて一番大切なことは、成人の意義というものをきょう考えねばならぬということだと思います。成人の意義とは、私は「立志」する、志を立てるということだと思っております。「志」は士の心と書きます。つまり武士の心を立てるということであります。武士の心とはなにか、これは国家社会のために尽すという心です。諸君はことしから選挙権をもち、社会のことにも責任をもっていただくわけで、国家社会に責任をもつということがその立志の第一項目であります。

その次は親を大事にする、親に感謝する。いままで諸君は育てられる側であったが、成人すると、こんどは親に感謝し、親に報いねばなりません。親が諸君を育てるのにはいろいろと苦労をしていただいた。その苦労に報いねばなりません。そして報いるだけじゃない、今度はこどもを育てねばなりません。それが大人のつとめであります。

その次は信をもって友と交わるということが大切であります。要するにウソを言わない。友達と信義をもってつきあう。これも武士の心であります。武士に二言はない。自分の言葉に責任を持ち、必ずそれを実行するというのが大人の立場であります。

四つめは、勇気をもってことにあたる。ひきょう未練は一ばん恥ずべきことです。いかなるときでも、勇気をもって、社会のこと、友のこと、仕事のこと一切にあたるというのが大人としてのつとめであります。勇気の根本は人に対する勇気であります。自分に対する勇気—克己という勇気—自分に負けないという勇気、それが大切であります。

五つめは、人さまに対してあわれみの心をもつ。それが大人としてのつとめであります。言いかえれば福祉の心をもつということになります。今までは諸君は人からあわれみをもらう。子どもだからそれで許された。しかしきょうからは、気の毒な人にぶつかると、ただちにその人たちを助ける。それが大人としての立場であります。

以上五つの心をもつということを立志というわけであります。「武士の心」ではわかりにくいので、私はそれを総称して「開拓精神」と申しております。

開拓精神を常時もつということが成人の意義であります。諸君はきょう成人式を迎えられて、この開拓精神で一生涯貫いてもらいたいと希望するわけで、もちろんそういう開拓精神で進む道が諸君の幸せな人生であります。諸君には本当に誇り高い幸せな人生をおくってもらわねばならぬが、そのためには開拓精神をもって生涯貫くぞという考えをきょうぜひ持っていただきたい。それがきょう諸君に期待する私の切なる願いであり、切なる贈りものであります。

大人になったいま、諸君はしっかりと社会のためにつくし、親にも報い、師にも報い、そして一切ウソを言わず、勇気をもって、あわれみの心をもってやらねばならんのだという覚悟をもっていただきたいと思います。

われわれは諸君を心から歓迎し、諸君とともに安心と希望のある立派な社会を築き、またみずからの人生も豊かにしてゆきたいと思っている次第です。

こえをきく

ての世論調査

奈良市は「近者よろこび遠者きたる」の理想郷をめざして市政を進め、その施政の基本に「すべて市民本位に」「すべて計画的に」「すべて夢をもって」の三本の柱を据えて新平城京のまちづくりを推進しています。こうした理想像の実現には、つねに〝市民の声〟を反映するよう心がけ、昭和四十二年から市政懇談会を地域ごとに開くほか市民相談室を常設するなど、あらゆる機会と場を設けて公聴活動を行なっています。毎年実施する「市政についての世論調査」は公聴活動の最も有力なもので、調査に示された〝市民の声〟は市政推進の重要な資料として役立っています。

世論調査は、ご承知のように最も科学的な方法によるサンプル調査で、ランダムに選ばれた少数のサンプルを調べることによって、市民全体の意識を知ることができるとされています。昭和四十九年度の調査は、市が重点的に行なっている諸施策について市民みなさんの反応を調べたもので、全調査十一項目・三十一問で、その結果の要旨はつぎのようになっています。

比重増す「住みよい」66・1%
評価高い「ゴミ・し尿処理」と「道路舗装」

生活環境

奈良市では「日本一暮らしよいまち」をめざして環境施策を進めていますが、これを市民がどのように受取っているか、そしてどのような施策を望んでいるかを調べてみました。

生活環境の評価

まず、奈良市に住んでよかったと思うかどうかについて聞いてみました。その結果「よかったと思う」と答えた

になっています。北部地域は最近に開発された住宅地で、居住年数も三年以下がほとんどの居住地になじみかねており、居住年数がふえるほど住み心地がよいというのは例年の傾向と変らず、二十六年以上と長くなると79・3%の高率を示しています。

よくなった市の施策

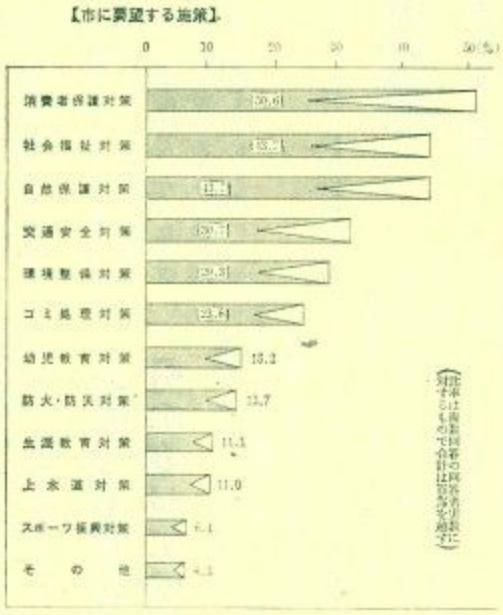
〝住み心地〟と直接関係のある市の施策の中で「最近よくなったと思われるもの」を挙げてもらいました。その結果、一ばん多かったのは「ゴ

内でかなり高く評価されていたのに対し、下水道事業区域に入っていない他の五地域でほとんど評価されなかったのは当然のことといえましょう。また「幼稚園・小学校の施設」では東部50・0%に対し旧市内9・8%と大きな評価差がありました。一方、この質問に対し北部地域だけは「わからない」とする人が60・9%もあったが、これは平城ニュータウンなど入居後日が浅く、過去と比較する材料を持っていないことを証明したものといえます。

「老人福祉」に関心
若年層には「盲人福祉」

護」がトップだったのが「消費者保護」に席を奪われたのは、四十八年から四十九年へつづく石油ショック以来の物不足・物価高騰による生活不安を、行政に向けてSOSを求めた結果といえるでしょう。女性の55・8%がこれをトップにあげていることが特徴的で、男性の「自然保護」(47・2%)がトップであるのと対照的です。しかし、上位三項目についてはあまり男女差は認められません。

【市に要望する施策】



福祉天国のまちづくり

福祉天国のまちづくりの基本として、奈良市では去る四十七年に全国にさきがけて福祉憲章を制定し、福祉都市を宣言しましたが、市民はこの

充実させたい福祉事業

福祉天国づくりには、なお今後多くの行政努力を必要としますが、市民の側ではどのような福祉政策を望んでいるであろうか。市で考えている六つの政策の中から二つを選んでもらいました。その結果は、やはり「老人福祉」が第一位で62・0%と高く、ついで「心身障害者福祉」33・6%、「低所得者対策」32・1%、「児童福祉」27・9%の順となっていました。

「低所得者対策」と「児童福祉」で男の方が女性より関心が高いほかは、女性の方がいくらか関心が高い。年齢別ではやはり「老人福祉」に六十代以上の念願が集まり78・0%と最高で、以下五十代75・2%、四十代68・2%、三十代54・1%、二十代48・6%と逓減していました。

部はいずれも52～53%の評価となっていました。

一方「あまりきれいになっていない」と否定的な人は中部地域に一ばん多く27・8%、あと旧市内25・0%、南部23・6%、西部22・3%、東部17・5%、北部13・0%の順。なお北部地域に「どちらともいえない」が21・7%とずば抜けて多かったのは、大部分が新入居のため、過去と比較する材料がなかったためのようです。

まちを美しくするには、どんな美化対策がよいか、予想される十の対策から三つを選んで答えてもらいました。

その結果は「道路や公園などにゴミ箱を多く設置する」というのが最も多く47・9%、ついで「街頭広告などの規制と取締り」38・5%、あと「ゴミの不法投棄取締条例の制定」「不法投棄パトロールの強化」「道路・みぞの清掃運動」がそれぞれ34～36%台を示し、これらの要望は前年調査とあまり変っていません。また新しく提唱されだした「ゴミを出さない運動」「過大包装をなくす運動」は比較的低位に止まりました。

生きがいのあるまちづくり

七つの項目を示しその中から三つを選んでもらうという方法で調べてみました。

その結果は、「百貨店・病院・旅館・ビルはじめ危険物を扱う施設への立入検査の強化」と「一般家庭の防火診断の強化」がそれぞれ73・3%、72・1%でトップグループ、ついで「市内各所への消火器の増設」「広報車・赤パイ隊などパトロールの強化」が各44・1%、37・9%と第二のグループを形成、「防火・防災訓練」「施設への消防訓練」などよりも、立入検査や防火診断、パトロールなど火の元監視に対する強化を望んでおり、予防消防の一そうの徹底化を期待していることがわかりました。

てきた
・早寝早起き運動

生きがいのあるまちづくりとして進めている「ごくろうさん・早寝早起き運動」につい

質問とその答え

火事の少ないまちづくり

◇市では「日本一火事の少ないまちづくり」をめざして"消火器を使わない消防"(予防消防)を推進してきました。その結果、奈良と同規模都市の中で、文字どおり日本一火事の少ないまちとなりました。あなたは、このことをご存じですか。

1.知っている　69.8%
2.知らない　30.2
計　100.0

◇火事をよりいっそう少なくするために、つぎの項目のうち、あなたは今後どのようにすればよいと思われますか。(三つ選択)

1.防火防災訓練の実施　24.4%(8.5%)
2.一般家庭の防火診断の強化　72.1(25.2)
3.公衆の集まる施設の消防訓練　24.3(8.5)
4.広報車・赤パイのパトロールの強化　37.9(13.3)
5.百貨店・病院・旅館・ビルおよび危険物を扱う施設への立入り検査の強化　73.3(25.7)
6.市内各所へ消火器の増設　44.1(15.4)
7.防火モデル地区の設定　5.8(2.0)
8.その他　2.5(0.9)
9.わからない　1.5(0.5)
計　285.9(100.0)

交通事故の起きないまちづくり

◇市では、交通事故を起こさないまちづくりとして「積徳運転」を呼びかけ、この運動の推進に取り組んでいますが、あなたは、このことをご存じですか。

1.知っている　61.6%
2.知らない　38.4
計　100.0

◇市では、また交通量の多い、事故の起きやすい市道2路線を「やすらぎの道」として、交通事故を起こすことのできないように、鉄球道路やドライバーに注意を呼びおこすカラー舗装、さらにドライバーの目を安らげる緑地帯を設けるなどしています。あなたは、これらが役立っていると思いますか。

1.役立っている　24.9%
2.どちらかといえば役立っている　26.8
3.どちらかといえば役立っていない　13.1
4.役立っていない　6.3
5.わからない　28.9
計　100.0

緑いっぱいのまちづくり

◇奈良市は、緑の多いまちといわれていますが、あなたの住んでいる地域は緑が多いと思いますか。

1.非常に多い　21.9%
2.比較的多い　51.0
3.少ないと思う　19.5
4.どちらともいえない　6.5
5.わからない　1.1
計　100.0

◇市では、緑いっぱいのまちづくりとして、植樹百万本計画を発足、初年度の49年度には十万本植樹する予定です。あなたは、市がこのような緑化運動を推進していることをご存じですか。

1.知っている　53.6%
2.知らない　46.4
計　100.0

◇あなたは、この緑化運動を今後とも進めた方がよいと思いますか。

1.大いに推進すべきだ　63.1%
2.推進すべきだ　29.4
3.推進する必要はない　2.7
4.どちらともいえない　3.1
5.わからない　1.7
計　100.0

◇市では、公園緑地課を新設するなど、緑化運動に力を入れていますが、あなたは、今後どのようにすればよいと思いますか。(三つ選択)

1.市の木、市の花を決める　26.5%(9.5%)
2.「植樹の日」「植樹週間」を設ける　25.2(9.0)
3.苗木の無料配布60.1(21.7)
4.「植樹相談カー」の出張相談・技術指導など　26.0(9.3)
5.家庭向け植樹パンフレットの作成配布　39.4(14.2)
6.ヘイの生がき化20.7(7.4)
7.公共施設用地への植樹　49.9(18.0)
8.植樹モデル地区の設定　10.1(3.6)
9.誕生記念植樹の奨励　11.7(4.2)
10.その他　3.5(1.2)
11.わからない　5.4(1.9)
計　278.5(100.0)

生涯教育のまちづくり

◇市民の生涯教育の場として公民館がありますが、あなたは、今までに公民館を利用したり、公民館活動に参加されたことがありますか。

1.利用(参加)した　31.5%
2.利用(参加)したことはない　68.5
計　100.0

◇(前問で「利用(参加)した」と答えた人に)それでは、どのようなことで利用(参加)されましたか。(複数回答)

1.公民館活動　27.5%(18.3%)
2.自治会活動　36.5(24.3)
3.婦人会活動　24.3(16.2)
4.子ども会活動13.3(8.9)
5.青少年活動　7.8(5.2)
6.老人クラブ活動　12.9(8.6)
7.PTA活動　11.8(7.8)
8.その他　16.1(10.7)
計　150.2(100.0)

◇あなたは、公民館で開くいろいろな教室(サークル活動)のうち、どのようなものに出席したいと思いますか。(複数回答)

1.文化教室　44.9%(32.2%)
2.教養教室　40.7(29.3)
3.体育教室　27.3(19.6)
4.いずれにも出席したいと思わぬ　9.8(7.0)
5.わからない　16.5(11.9)
計　139.2(100.0)

市民のこ

市政について

調査方法

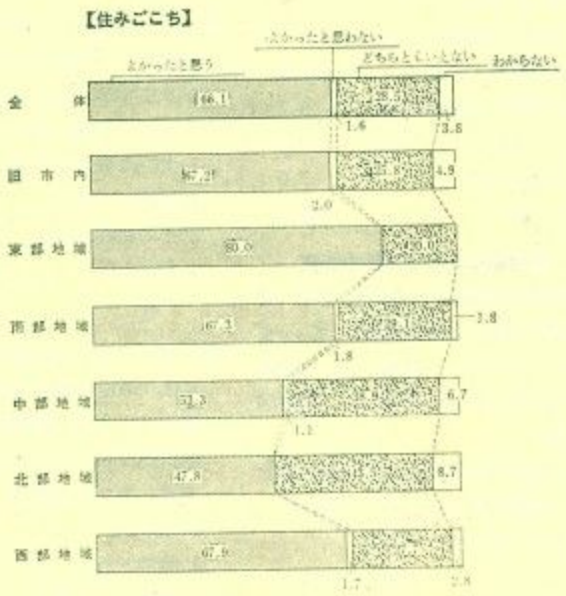
調査は全市選挙有権者名簿から、層化二段無作為抽出法によって調査の対象となる人（サンプル）千三百人を選び、その個々に調査票を郵送・回収する方法で行ないました。調査担当機関は㈱日本マーケティング・エージェンシーで、調査時期は四十九年七月二十九日～八月十三日。

回収された有効調査票は八百十で回収率は62・3％でした。

聞いてみました。その結果「よかったと思う」と答えた人は66・1％で、全体の半数を大きくオーバーしているが、過去五年の調査（72・1～54・3％）に比べると中位にあります。しかし「よかったと思わない」の答え1・6％は最低を示し、「どちらともいえない」28・5％をあわせ考えると、奈良市の生活環境は「住みよい」と「住みよくない」の差が次第に縮まり、だんだん「住みよい」が比重を増しているといえるようです。

「住んでよかった」という人は、五十代と六十代以上がいずれも80％以上と多く、年代の下るにつれて少なくなり二十代で53・0％となっています。また地域別では東部の80・0％を頂点に西部、南部、旧市内、中部、北部の順

【住みごこち】



挙げてもらいました。その結果、一ばん多かったのは「ゴミ・し尿の収集」（51・5％）で、つづいて「道路の舗装と補修」49・9％、「公民館・スポーツ施設」30・9％、「社会福祉」24・9％などに高い評価が集まっていました。

男女別、年齢別による大きな評価の差は見られず、わずかに「社会福祉」に六十代以上、「公民館・スポーツ施設」に二十代の評価が高い程度でしたが、地域的にはそれぞれの特性が出ていました。「下水道や排水設備」が旧市が浅く、過去と比較する材料を持っていないことを証明したものといえます。

市に要望する施策

より住みよいまちづくりのために、市民は市の施策に何を望むか、十一の項目から三つを選んで答えてもらいました。いちばん多かったのが「消費者保護対策」（50・6％）で、「社会福祉」「自然保護」（各43・7％）「交通安全」（30・7％）「環境整備」（29・3％）「ゴミ処理」（23・6％）とつづいていました。

前年度調査では「自然保護憲章を制定し、福祉都市を宣言しましたが、市民はこのことをどの程度知っているかを調べてみました。

調査の結果は「知っている」が56・0％と過半数で「知らない」が44・0％。男性の61・1％が知っているのに対し女性は51・2％と低く、年齢別では六十代以上の64・2％をトップに四十代、五十代、三十代の順に高年齢層に高く二十代は44・9％と半数を割っていました。

福祉事業の認知度

奈良市が行なっている福祉事業のうち十二項目を示して知っているもの全部を挙げてもらいました。

その結果、「老人の医療無料化」がすば抜けて高く81・1％を示し、ついで「老春の家」67・9％、「老春手帳」67・7％と老人福祉関係が上位三位を占めていました。これら三つのほか「金婚祝賀会」「万年青年大行進」など老人対象のものは六十代以上が90％内外と知る度合いが高く、「盲人用信号機」は二十代が46・5％で最も高いなど、福祉事業に対する関心度は年齢差が強く出ていました。

評価高まる――まちの美化

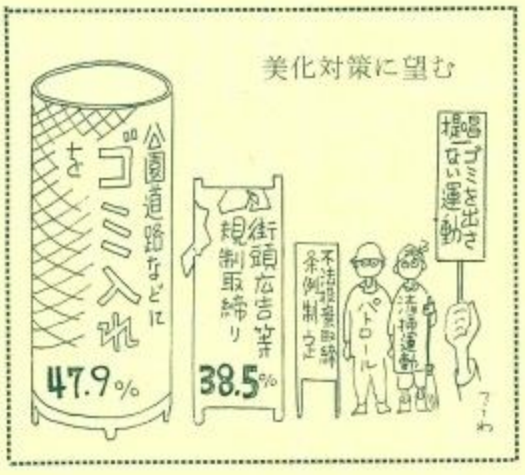
美しく清掃されたまちづくり

東部・北部に推進論百％

その結果は「非常にきれいになった」と答えた人が9・3％、「ややきれいになった」が47・9％で、合わせて57・2％と市民の過半数がこの行政の効果を評価していました。しかし一方では「あまりきれいになっていない」と否定的な人も23・3％、また「どちらともいえない」の消極的な人が12・8％あることは留意せねばなりません。

地域的には東部が80・0％と評価が高く、ついで南部63・7％旧市内60・2％の順で、他の西部・中部・北部が比較的低位に止まりました。

美化対策に望む



火事の少ないまちづくり

願う立入検査と防火診断の強化

予防消防の徹底へ

奈良市は昭和四十九年までに全国類似規模都市で六年連続日本一火事の少ない記録を保持してきましたが、その基本は〝消火器を使わない消防〟――予防消防――に徹してきたからです。市民がこのことをどの程度知っているかを調べたわけですが、全体では69・8％が「知っている」と答え、かなり広く知られていることがわかりました。このことは男性（73・4％）の方が女性（66・3％）よりずっとよく知っていました。

つぎに火事をいっそう少なくするために、市民がどのような対策を望んでいるかを、

浸透して

ごくろうさん・早寝

動」について調べてみました。

市民がこの運動をどの程度知っているかについては「知っている」と答えた人が76・9％で、二年前の四十七年度調査時の61・0％よりはるかに多くなっています。男性に案外低く69・8％、これに対し女性は83・7％とはるかに高く、年齢別では四十代84・1％、居住年数別では二十六年以上居住者87・4％がそれぞれトップとなっています。

さらにこの運動の推進について、将来とも「大いに推進すべきだ」とする人は26・7％、「推進すべきだ」が37・8％で、合計すると推進派は64・5％。これに対し「推進の必要はない」とする否定的意見は6・7％に過ぎません。地域的には東部に80・0％と推進論が圧倒的で、南部76・4％、旧市内66・0％、中部64・5％、西部60・9％の順で、土地になじみの浅い北部は47・8％と最低を示しました。

質問とその答え

生活環境

◇あなたは、奈良市に住んで「よかった」とお思いですか。

1.よかった	66.1%
2.よかったと思わない	1.6
3.どちらともいえない	28.5
4.わからない	3.8
計	100.0

◇ここ数年、市の施策としてとくによくなったと思われるのは、つぎのどれでしょうか。（三つ選択）

1.道路の舗装・補修	49.9%	(19.4%)
2.下水道・排水設備	17.0	(6.6)
3.幼稚園・学校などの施設	17.9	(7.0)
4.ゴミ・し尿の収集	51.5	(20.2)
5.社会福祉	24.9	(9.7)
6.防火防災対策	17.2	(6.7)
7.交通安全対策	11.6	(4.5)
8.水道施設	16.3	(6.3)
9.公民館・スポーツ施設	30.9	(12.0)
10.都市・児童公園など子どもの遊び場	3.2	(1.2)
11.その他	1.7	(0.7)
12.わからない	14.6	(5.7)
計	256.7	(100.0)

◇市では、市民が安心と希望のもてる、どこよりも住みよいまちにするため努力していますが、あなたはそのために市政につぎのうちどのようなことを望みますか。（三つ選択）

1.ゴミ処理対策	23.6%	(8.2%)
2.防火防災対策	13.7	(4.8)
3.交通安全対策	30.7	(10.7)
4.社会福祉対策	43.7	(15.2)
5.自然保護対策	43.7	(15.2)
6.上水道対策	11.0	(3.8)
7.幼児教育対策	15.2	(5.3)
8.生涯教育対策	11.1	(3.9)
9.スポーツ振興対策	6.4	(2.2)
10.消費者保護対策	50.6	(17.8)
11.環境整備対策	29.3	(10.2)
12.その他	6.3	(2.2)
13.わからない	1.4	(0.5)
計	286.7	(100.0)

福祉天国のまちづくり

◇あなたは、市が福祉天国のまちづくりとして、全国に先がけ福祉憲章を制定し福祉都市を宣言したのをご存じですか。

1.知っている	56.0%
2.知らない	44.0
計	100.0

◇福祉天国のまちづくりとして、市ではいろいろの事業を行なっています。つぎのうちご存じのものをいくつでもあげてください。（複数回答）

1.奨学金の交付	32.1%	(6.8%)
2.母子住宅	17.2	(3.7)
3.母子福祉センター（母と子の家）	33.5	(7.1)
4.みどりの家	35.4	(7.5)
5.老春の家	67.9	(14.4)
6.金婚祝賀会	31.9	(6.8)
7.盲人用信号機	38.3	(8.1)
8.老春手帳	67.7	(14.4)
9.有朋手帳	25.6	(5.4)
10.愛語手帳	14.8	(3.2)
11.老人医療の無料化	81.1	(17.4)
12.万年青年大行進	18.5	(3.9)
13.わからない	6.2	(1.3)
計	470.2	(100.0)

◇市が行なっている福祉行政のうち今後いっそう充実を希望されるものはどれですか。（二つ選択）

1.老人福祉対策	62.0%	(32.2%)
2.心身障害者福祉対策	33.6	(17.5)
3.児童福祉対策	27.9	(14.5)
4.母子福祉対策	12.6	(6.6)
5.精神薄弱者福祉対策	16.3	(8.5)
6.低所得者対策	32.1	(16.7)
7.その他	1.5	(0.8)
8.わからない	6.2	(3.2)
計	192.2	(100.0)

美しく清掃されたまちづくり

◇市では「日本一美しく清掃されたまちづくり」をめざして清美機動班を発足させるなど、市民ぐるみの美化運動を推し進めています。あなたは、この運動でまちがきれいになったと思われますか。

1.非常にきれいになった	9.3%
2.ややきれいになった	47.9
3.あまりきれいになっていない	23.3
4.どちらともいえない	12.8
5.わからない	6.7
計	100.0

◇あなたは、この「まちを美しくする運動」を今後とも進めた方がよいと思われますか。

1.大いに推進すべきだ	70.2%
2.推進すべきだ	25.6
3.推進する必要はない	1.0
4.どちらともいえない	2.1
5.わからない	1.1
計	100.0

◇まちをより美しくするためには、つぎの施策のうち、こんごどういうことをすればよいと思われますか。（三つ選択）

1.公園・道路などにゴミ箱を多く設置する	47.9%	(15.7%)
2.美化モデル地区の設定	6.3	(2.1)
3.花づくり運動の推進	28.5	(9.4)
4.街頭広告などの規制と取締まり	38.5	(12.7)
5.不法投棄パトロールの強化	34.6	(11.4)
6.空地の草刈条例の制定	35.4	(11.6)
7.ゴミの不法投棄取締条例の制定	36.5	(12.0)
8.地域の道路・みぞなどの市民ぐるみ清掃運動	34.4	(11.3)
9.ゴミを出さない・つくらない市民運動	22.8	(7.5)
10.過大包装をなくす運動	16.3	(5.4)
11.その他	2.2	(0.7)
12.わからない	0.7	(0.2)
計	304.1	(100.0)

市民のこえをきく

市政についての世論調査

〔つづき〕

大多数が『植樹百万本』を支持

多い緑をさらにふやせと緑化推進へ意欲

緑いっぱいのまちづくり

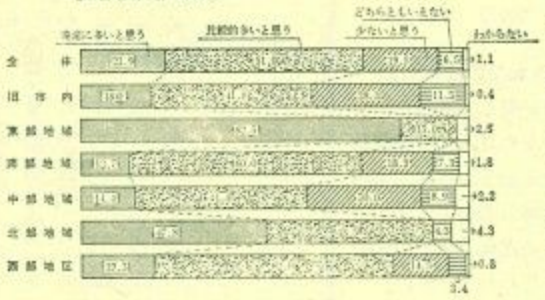
奈良市は緑の多いまちといわれていますが、こんどの調査で市民の七割以上が緑の多いことを意識していることがわかりました。「非常に多いと思う」との答えは全体の21・9%で「比較的多いと思う」が51・0%となり、これに対して「少ないと思う」は19・5%でした。

しかし、同じ「多い」といっても地域的にはそれぞれ特色があり、東部地域などは「非常に多い」が82・5%もあり「少ない」は皆無で、「わからない（答えない）」2・5%を除いた97・5%が緑の多いことをよろこんでいます。また東部と違ってほとんどが開発地である北部地域で「非常に多い」が47・8%もあり、「多い」を加えると91・3%が緑をたたえているなどは特異な傾向といえます。しかし今後のニュータウンの開発で、これがどう変っていくかは将来の問題といえましょう。その他の地域では西部の81・3%、南部の72・7%のほかは、旧市内と中部の両地域（各59・8%、58・8%）で「緑が少ないと思う」と答えた人が各30%内外もあったのは意外な結果といえましょう。

緑化運動の浸透度

市では「緑いっぱいのまちづくり」をめざして四十九年度から十ヵ年計画による植樹百万本運動を推進しています。市民がこのことをどの程度知っているかを調べたところ、53・6%の人が「知っている」と答えました。運動発足から調査時点までわずか三カ月ほどの間に、これだけ市民に知られているのは、いかに緑に対する市民の関心が強いかを裏書きするものといえます。

【居住地域の緑の程度】



と同時に、緑化運動推進についても「大いに推進すべきだ」（63・1%）「推進すべきだ」（29・4%）とする積極論者が計92・5%に上っていることは、緑は多い上にも多くを保ちたいとする大多数の意欲の現れといえます。この意欲は東部山間地帯の80・0%を除き、北部・南部・西部・旧市内・中部各地域とも90%以上の率となって現れています。

西安に関心最高

国内都市は案外に低調

都市提携推進に七割以上が賛成

国際都市としての都市外交

奈良市は同じ歴史につながる国内外の五都市と姉妹都市の友好親善関係を結び、とくに国外の都市とは国際的な視野に立ってこれからの親善を進めていこうとしています。これらの都市は国内では福井県小浜市・福島県郡山市、国外では韓国慶州市・スペインのトレド市・中国西安市です。そこで市民はこれら提携都市をどの程度知っているかをまず調べ、つづいてこれら親善提携についてどんな評価をしているかを調べました。

提携都市として一ばんよく知られていたのは西安市で市民の34・9%が知っており、ついで慶州市（22・3%）、この両市に対しトレド市は地理的な関係もあって知名度はぐんと低くて9・4%。国外都市に対して国内都市は案外に知られず、小浜市15・8%郡山市は8・1%止まりでした。しかし一都市も知らなかったのは19・6%で、多くの人は一～二の都市を知っていたわけです。西安市の知名度が高いのは、西安での宣言から調査まであまり時間がたっていなかったことと、市民の西安に対する関心が高かったためと思われます。

つぎに、このような都市提携に対する市民の評価は「良いことだと思う」が43・8%、「悪いこととは思わない」が27・9%となり、積極・消極を含めての賛成は71・7%で、前年調査の46・7%を大きく引離して伸びています。男性（68・8%）よりも女性（73・5%）の賛成が多く、六十代以上に積極的賛成が多く見られました。

一方では「必要と思わない」という否定的な評価をする人が6・7%あり、「別に何とも思わない」との無関心組も16・7%で、これは若年層に多いようです。

のぞむ緑化対策

市では昨年四月公園緑地課を新設して全市の緑化に取組んでいますが、今後この運動をどのように進めたらよいかについて九つの案を示し、その中から三つを選んでもらいました。

その結果は「苗木の無料配布」が60・1%と最も多く、ついで「公共用地での植樹」49・9%、「家庭向けの植樹パンフレットの配布」39・4%などに強い要望が示されました。東部地域ではこのほかに「植樹の日・植樹週間の設定」「誕生記念植樹」への要望が目立ちました。

「やすらぎの道」は事故防止に役立つ

半数以上が効果みとめる

交通事故の起きないまちづくり

奈良市では「交通事故を起こさないまちづくり」の一環として、運転者向けには市長提唱の「積徳運転」運動を推進していますが、このことが市民にどの程度浸透しているかを調べてみました。その結果「知っている」と答えた人が61・6%で、知らない人が38・4%あることがわかりました。知っているのは男性（67・8%）が女性（55・6%）より多く、年齢別では二十代、三十代、四十代、五十代、六十代以上の順となっていました。二年前の四十七年に比べると、その浸透の度合は三・六倍強となっています。

ついで、交通事故防止の施設面で市が重要な市道につくっている「やすらぎの道」の効果について、市民がどのような意識をもっているかを調べてみました。その結果は、交通事故防止に「役立っている」と見る人が24・9%、「どちらかといえば役立っている」とする人が26・8%で、この両者を合わせると51・7%と半数以上の人が「やすらぎの道」の効果を評価していることになります。

年齢的には六十代以上の高年層を頂点に「役立っている」とする人が多く、若年になるほど少なくなり、否定的であるといえます。

以下、七の面下段へつづきます。

地域の分類

調査結果の分析の必要上、調査は全市域を六つに分類して行ないました。これは地域的特性、住民の職業、生活環境など共通性の濃い意識の分析に役立てるもので、つぎの地区から成っています。地域間のサンプルの比重は変りません。

【旧市内】椿井・飛鳥・済美・鼓阪・佐保（一部）・大宮（一部）

【東部地域】精華・田原・大柳生・柳生・東里・狭川

【南部地域】東市・帯解・明治・辰市

【中部地域】大安寺・都跡（一部）・佐保（一部）・大宮（一部）

【北部地域】平城ニュータウン

【西部地域】伏見・あやめ池・学園・富雄・都跡（一部）・平城

質問とその答え

生きがいのあるまちづくり

◇市では、市民が生きがいを持ち、市民すべてが友人となるようなまちづくりをするため「ごくろうさん・早寝早起き運動」を推しすすめています。あなたは、この運動をご存じですか。

1.知っている	76.9%
2.知らない	23.1
計	100.0

◇ところで、この運動はことし5年目を迎えましたが、あなたは、この運動をもっと推進するべきだと思いますか。

1.大いに推進すべきだ	26.7%
2.推進すべきだ	37.8
3.推進する必要はない	6.7
4.どちらともいえない	21.8
5.わからない	7.0
計	100.0

国際都市としての都市外交

◇奈良市は国際的な視野に立ち、国内外の都市と姉妹提携しています。あなたは、提携している相手の都市をご存知ですか。（複数回答）

1.中国の西安市	71.6%	(34.9%)
2.韓国の慶州市	45.9	(22.3)
3.スペインのトレド市	19.4	(9.4)
4.福井県の小浜市	32.5	(15.8)
5.福島県の郡山市	16.7	(8.1)
6.知らない	19.6	(9.5)
計	205.7	(100.0)

◇奈良市がこのようにいろいろな都市と提携を結ぶことを、あなたはどう思われますか。

1.よいことだと思う	43.8%
2.悪いとは思わない	27.9
3.別に何とも思わない	16.7
4.必要とは思わない	6.7
5.わからない	4.9
計	100.0

市民生活の安定対策

◇市では、市民生活の安定対策推進と自然食品普及のため、生活安定課を新設しました。あなたは、このことをご存じですか。

1.知っている	37.7%
2.知らない	62.3
計	100.0

◇市では、去る46年から自然食品普及の一環として、みそづくりの普及をはかっています。あなたは、このことをご存じですか。

1.知っている	82.5%
2.知らない	17.5
計	100.0

◇ことしからは、このみそづくりに加えて、つけ物づくりの普及もはかりますが、あなたは、これらのことをどう思いますか。

1.大いに普及すべきだ	41.1%
2.普及すべきだ	41.0
3.その必要はない	5.2
4.わからない	12.7
計	100.0

◇みそづくりやつけ物づくりの普及には「みそ会館」などで講習会を開いています。講習会は申込めば順次受けられることになっていますが、あなたは参加したいと思われますか。

1.参加したい	45.9%
2.参加したくない	14.7
3.どちらともいえない	28.5
4.わからない	10.9
計	100.0

廃物の活用

◇市では、全国の都市に先がけて近く専門の課を新設し、廃物の活用とムダ排除を市の行政で取り組むことになりました。あなたは、このことについてどう思われますか。

1.積極的に取り組んでほしい	75.8%
2.別に必要とは思わない	6.1
3.どちらでもよい	12.3
4.わからない	5.8
計	100.0

二二一人に感謝状

市自治会長新年総会

奈良市の昭和五十年自治会長新年総会が一月十七日市庁舎別館で開かれ、各地区から自治会長五百五人が出席しました。

鍵田市長が「日ごろのご協力に心から感謝します。皆さん方のご協力のおかげで二十五万人口になっても他都市よりすぐれた行政を進めさせていただいています。おたがいの深いご縁に結ばれての奈良市です。こともまたご協力を賜わり、おたがい精進努力して奈良のまちがよりりっぱに、より発展するようまちづくりをすすめていきたい」とあいさつしました。

つづいて加藤市議会議長がお祝いのあいさつのあと、自治会に功労のあった二百二十一人に感謝状が鍵田市長から贈られました。（順不同・敬称略）

【自治連合会長退任者】下出久治郎（済美）▽山中好一（辰市）▽北森重一（田原）

【20年勤続】立石米蔵（西紀寺本町）▽中谷武（福智院町）▽山村藤一（東之阪町一丁目）

【5年以上】森田廣太郎（餅飯殿町）▽山口忠士（川之上突抜北方町）▽中村由太郎（南袋二）▽上司延武（東大寺境内町）▽中房治郎（南半田東町）▽藤本国之助（東向北町）▽八尾金一（鍋屋町）▽吉川清太郎（半田横町）▽橋本正宣（法蓮佐保一区）▽小林雅次（三条通二丁目）▽内山馘三（三条添川町）▽木村米次（西之阪町）▽仲香春雄（大宮町四丁目）▽伏見良作（大宮町五丁目）▽中西亀太郎（二条一丁目）▽井上英子（二条三丁目）▽西岡憲二郎（古市七丁目）▽上田嘉（西大寺竜王町）▽池田昇（若葉台三丁目）▽峰内末人（若葉台五丁目）▽平田義一（中山町）▽岡田庄太郎（今市三丁目）▽古川正春（菩提山町）▽川島寅一郎（東登美ヶ丘二丁目）

【一年以上で退任者】新堂源一（東城戸町）ほか百九十人

新年総会で自治会長にあいさつする鍵田市長

行事予定

1日（土）
- 県高校バドミントン新人大会（～2日、中央体育館）

3日（月）節分、春日大社万とうろう

4日（火）立春

5日（水）第30回国民体育大会冬季大会スケート競技（～8日、山梨県富士吉田市）

9日（日）
- 花の市（行基噴水広場、西部公民館）
- 全日本バレーボールリーグ・松下電器対富士フィルム（中央体育館）

11日（火）旧元日、建国記念の日

13日（木）
- 第24回日本花卉生産者大会（～15日、中央体育館）

14日（金）聖バレンタインデー
- 小浜市物産と観光展（～16日、県商工観光館）

15日（土）
- 高校選抜バレーボール近畿予選（中央体育館）

16日（日）第30回国民体育大会冬季大会スキー競技（～19日、北海道富良野市）

19日（水）
- 奈良観光物産春の新作見本市（～21日、奈良商工会議所）

23日（日）
- 親と子の冬山のつどい（葛城山）
- 県バドミントン総合大会（中央体育館）

28日（金）全国火災予防運動（～3月13日）
車両火災予防運動（～3月6日）

善行者表彰など

新年子ども大会

第十六回奈良市新年子ども大会が一月十九日に椿井小学校で開かれました。主催は市青少年問題協議会・市子ども会育成連絡協議会・市児童文化研究会。この日は市内子ども会のちびっこ達六百人が参加、慶田助役が「未来に大きな夢を託す子ども達は奈良市の宝。しっかり勉強して立派な社会人になって下さい」とあいさつ。善行のあった子ども十四人と四団体の善行者表彰があって、みんなで「森の熊さん」などを歌ったり、童話を聞いたり「怪獣戦争」の映画を見たりして楽しい半日を過ごしました。

善行児童に表彰状を渡す慶田助役

簡易保険へご加入を

郵政省で新規加入運動

郵政省所管の簡易生命保険事業は年々順調な発展をとげ、現在保有契約件数は約四千八百七十万件、保有契約高は約二十一兆円、資金総額は五兆二千億円にも達し、この資金は財政資金として自治体を通じ学校・住宅・道路の建設などに使われ豊かで住みよいまちづくりに役立っています。

郵政省では、簡易保険に対する正しい理解をえるとともにより一層簡易保険の普及をはかるため、ことし一月から三月末まで「明るいくらしの設計・簡易保険新加入運動」を展開しています。この運動期間中各郵便局では、ことし小学校に入学される子どもさん全員に、交通安全を願って「交通安全ハンカチ」と「交通安全ぬり絵」を贈っています。

くわしくは奈良郵便局（電話㉒五四五六番）または奈良西郵便局（電話㊸〇九一五番）へお問い合わせください。

柳生消防団の出ぞめ式

恒例の柳生消防団出初式は一月十九日柳生中学校々庭で、消防団員三百四十人が参加して行なわれ今年の無火災を誓いあいました。

西久保消防団長や永井婦人消防団長が「われわれの郷土はわれわれの手で守るためにがんばろう」と激励。鍵田市長も「柳生の無刀取りに学び火事も起すまえに押える。いわゆる予防消防が消防団としての大切な任務と考える」と〝攻める消防〟を強調しました。このあと服装や機械・器具の点検、放水訓練が行なわれました。

電気配線を無料で診断

電気工事組合

県電気工事組合では電気を安全・便利に使っていただくと同時に、電気配線の不良個所をなくすため、ご家庭の電気配線の無料診断を行なっています。同組合所属の電気工事店がご家庭を訪問して電気設備を点検します。実施に先立って各自治会を通じて「個別診断のお知らせ」を配布します。今回は二月二十日か同二十五日までの期間につぎの各町を実施します。

北川端町、北袋町、後藤町北魚屋東町、北魚屋西町、半田突抜町、北半田西町、半田横町、水門町、押上町内侍原町。

なお、お問い合わせは同組合（電話㊸四三四〇番）か、関西電力奈良営業所（電話㉔一二〇一番）、同サービスセンター（電話㉓四八八二番）へ。

「市政についての世論調査」つづき

三人に一人が公民館利用

女性と高年齢層が愛用

生涯教育のまちづくり

奈良市は「生涯教育のまちづくり」として公民館網充実を進めていますが、これら公民館が何のためにどの程度利用されているかを調べてみました。

それによると、今までに公民館を「利用（参加）した」と答えた人は31・5％で、三人弱に一人の割合で利用され、女性（37・9％）が男性（24・9％）よりよく利用していることがわかりました。また女性の中では時間的余裕のある主婦に利用者が断然多く、その40・8％にも達しています。これと同じように男性では六十代以上の年齢層（34・0％）によく利用されています。地域的には依然として東部に利用度が高くて57・5％を示し、以下南部38・2％、西部・中部各35・6％、以下ぐんと落ちて旧市内19・7％、北部13・0％の順となっています。

これら公民館利用者は、自治会活動（36・5％）に一ばん多く、ついで公民館活動（27・5％）婦人会活動（24・3％）となり、男性（55・6％）では自治会活動が最も多く、女性（34・6％）では婦人会活動が最も多いという傾向を示しています。

公民館活動の中で教室（サークル活動）を開くとすればどんなものに出席したいかをきいてみました。その結果は文化教室への希望（32・2％）が最も多く、あと教養教室、体育教室の順となり、「出席したいと思わない」は7・0％に過ぎませんでした。地域でみると若い人の多い北部では「文化」と「体育」両教室が強く望まれ、東部では「教養教室」に強く、きわ立った対照を見せました。

市民生活の安定

歓迎されるみそづくり

市民生活の安定と自然食品の普及をはかるため、市では昨年四月生活安定課を新設しましたが、このことを市民がどの程度知っているか。また去る四十五年から進めている「みそづくり普及運動」の周知度、みそ・つけものづくり講習会への参加希望などを調べてみました。

まず、生活安定課について「知っている」と答えた人は37・7％で「知らない」は62・3％。新設後日が浅いだけに周知度は低く、とくに男女とも二十代にはあまり知られていませんでした。これに対し「みそづくり」は周知度がぐんと高く「知っている」人は82・5％にも及び、とくに女性の間には88・3％と高率を示しました。五十代の92・0％をトップに四十代、三十代の中年層によく知られ、女性の三十代は95・3％という驚異的な周知率を示しました。

そこで、みそとかつけものなど自然食品の普及について、市民はどのように評価しているかを調べてみました。その結果は「大いに普及すべきだ」とする人が41・1％、「普及すべきだ」という人が41・0％となり、合わせて82・1％という大多数が普及を歓迎していることがわかりました。やはり男性（78・4％）より女性（85・7％）の方が熱心で、地域的には旧市内が低調なほかは他地域はすべて80％以上の普及賛成となっていました。

このような講習会を開いた場合、どの程度の参加希望があるかを調べました。それによると「参加したい」人は45・9％と、普及を歓迎する割には積極的に講習を受けようとする人の率は低いようです。

若年層に強い期待感

廃物の活用

繁栄の中での物価高、物不足が深刻な時代を迎えましたが、市ではこれに対処して廃物の活用とムダ排除を行政の中で進めていくことにしています。このような施策に対して市民はどのように考えるかをきいてみました。その結果「積極的に取組んでほしい」と期待を寄せた人は75・8％と高率を示しました。これに対し「どちらでもよい」と消極的なのが12・3％、「別に必要とは思わない」と否定的なのが6・1％でした。積極的な期待感をもつ人は二十代の若年層に一ばん多く81・6％と意外性を示し、とくに同年代の女性は83・9％とトップ。

オリエンテーリング大会

恒久コース開設を記念して

2月23日

奈良市にオリエンテーリングのパーマネントコースが開設され、そのオープン記念のオリエンテーリング大会が開かれることになりました。コース名は「オリエンテーリング奈良高円山パーマネントコース」。市野外活動協会・県オリエンテーリング協会が主催、県市両教育委員会が後援するもので、大会要項はつぎのようになっています。

▽とき＝二月二十三日（日）午前九時市立高円公民館（紀寺町八二六）受付、同九時半～十一時スタート。▽参加者＝小学校四年生以上の個人か三～五人のグループ、あわせて四百人。▽参加費＝一人二百円。▽持ち物＝赤ボールペン、スケール、弁当、水筒。▽申込み＝往復はがきに①住所②氏名③年齢④性別⑤個人・団体の別⑥団体参加者名簿（氏名・年齢・性別）⑦オリエンテーリング参加経験の有無⑧シルバコンパスの有無⑨当日会場到着予定時刻を書き二月十二日までに市教育委員会保健体育課（紀寺町八二六、電話㉖六五二一番）へ。

なお、当日は午前九時半と十時半の二回、初心者のための講習会を高円公民館で開きます。

奈良高円山パーマネントコース

オリエンテーリング（O・L）という競技は地図と磁石を頼りに山野を歩き・走り、かくされたポストを探しあてながらゴールインの早さを競うもので、近年青少年の間にブームを呼んでいます。奈良市ではこの恒久コースを設定することになり、柳生街道・山の辺の道・鹿野園を取り入れた奈良公園南部の大自然の地に規格に合った十〝コースを開設しました。県下では既設の天理、吐山、吉野とともに四コースしかありません。

母子住宅入居者を募集

市春日母子住宅（西木辻八軒町）が二戸あいたので、入居者をつぎの要領で募集しています。

▽問取り＝四畳半、七畳、玄関、押入れ、台所、便所。▽家賃＝月二千円。▽入居資格＝①母子家庭で二十歳未満の子を扶養している人。②市内に六カ月以上住んでいて、現に住宅に困っている人。③申し込み時の収入基準額が三万円以下（詳細は福祉第二課でおききください）の人。▽手続き＝入居申込書・所得金額証明書（用紙は二月七日～同十五日に福祉第二課で交付）、住民票の写し（家族全員）、戸籍謄本、所得金額証明書（昭和四十九年二月一日～五十年一月三十一日までの一年間の所得金額）、母子福祉法による母子であることの証明書（地元民生委員発行）を添えて本人または同居親族が必ず持参してください。▽申し込み＝二月十七日～同二十二日の間に市社会福祉事務所福祉第二課（紀寺町八二六、（電話㉖六五〇一番）へ。

健康メモ

◇トイレでのお年寄りの卒中にご注意

暖かい寝床から寒いトイレに行くと血圧が瞬間に急上昇し、卒中を起こす恐れがあります。室内にシビンを用意するなどして気をつけましょう。

◇子どもたちにバターをたっぷりと

バターは身体をあたため、ビタミンAやDが豊富に含んでいます。寒さに負けない子どもの食料として、チャーハンやトースト、野菜いためなどにできるだけ多く与えましょう。

姉妹都市小浜市の物産と観光展

十四日から県商工観光館で

姉妹都市福井県小浜市の「物産と観光展」が二月十四日～十六日の三日間、県商工観光館（市内橋本町）四階で開かれます。奈良・小浜両市の親善をはかって両市および両市観光協会の共催でひらいているものでことし五回目。

若狭湾国定公園のポスターや写真展のほか、海産物（若狭カレイ、小ダイのささづけ、焼さばなど）をはじめ、同市の特産めのう、若狭塗り、若狭パール、うるしダルマなどの特産品が多数展示即売されます。

料理教室

若草公民館

市立若草公民館（市内八反田町、電話㉙〇一三〇番）で、二十一日から三月末までつぎのとおり料理教室を開きます。

毎週金曜日午後一時から四時。▽対象＝市内在住の婦人で定員二十人。▽受講料＝無料（テキスト代、材料費は実費）。▽申し込み＝往復はがきに住所・氏名（ふりがな）・年齢・電話番号を書いて二月十五日までに同公民館へ。

上水道給水・排水設備両業者の公認手続変る

上水道給水工事公認業者と排水設備工事公認業者の公認申請手続きは従来その都度行なってきましたが、今後は申請と公認の時期がそれぞれつぎのようになりました。

◇市上水道給水工事の業者＝公認申請期間は毎年二月一日～同末日。公認は毎年四月。

◇市排水設備工事の業者＝公認申請期間は毎年五月一日～同末日。公認は毎年六月。

市排水設備工事責任技術者資格審査

▽受験資格＝①旧制中学または新制高校以上の学校で土木科か衛生工学、これらに相当する学科を卒業した者で、二年以上の経験者②引続き五年以上の経験者③市長が前記の者と同等以上と認めた者。▽提出書類＝①申請書（市下水道課で交付）②履歴書③住民票抄本④卒業証明書⑤身元証明書（本籍地役場発行）⑥写真二枚（最近三カ月以内のもの、ライカ版）▽審査料＝二百円。▽申し込み＝二月十日～同十七日に市下水道課へ。▽試験＝二月二十七日午前九時半から市内大森町県農協会館で。（講習会は二月二十日午前十時から同会館で）▽発表＝三月五日市役所下水道課前に掲示。

障害成人者に福祉年金支給

障害者で二十歳になった人には障害福祉年金が支給されます。支給対象となる障害の程度は昨年四月から二級まで範囲が広げられ、支給額も同九月の改正で一級は年額十三万五千六百円（月額一万一千三百円）、二級は同九万円（月額七千五百円）に引き上げられました。この年金は収入の多い方とか他の年金を受けておられる方には制限があります。

二十歳前に身体障害になられた方は二十歳になったとき市役所年金課へご相談ください。

成人したら国民年金へ

成人すれば、他の新しい権利義務と同様、国民年金に加入することも〝つとめ〟の一つです。わが国では二十歳から六十歳までの方はすべて国民年金に加入しなければなりません。次の年金に加入したり、かかわりをもつ期間は国民年金に加入する必要はありませんが、そうでない人はすぐ国民年金に入りましょう。

厚生年金保険▽船員保険▽国家または地方公務員共済組合▽公共企業体職員等共済組合▽私立学校教職員共済組合▽農林漁業団体職員共済組合▽国会議員互助年金の被保険者または組合員および受給権者（恩給の受給権者含む）とそれらの配偶者、昼間の大学または大学院生。

このように国民年金へ加入の必要がない人のなかでも、サラリーマンの奥さんや昼間部の大学生、大学院生または他の年金や恩給を受けている人などは任意に国民年金へ加入できます。

手続きは市役所年金課または各出張所・連絡所へ。

新に九カ町

下水道が整備

下水道整備事業が進み、つぎの九カ町の各一部が処理可能区域となり、浄化槽のいらない水洗便所が使えることになりました。対象戸数は約五十五戸で、これで全市約一万四千七百十九戸が下水道の恩恵を受けられるわけ。

東向北町▽登大路町▽今小路町▽雑司町▽本子守町▽南袋町▽南城戸町▽上三条町▽法蓮町

ボーイスカウトへいらっしゃい

済美地区団で募集

日本ボーイスカウト済美地区団育成会（設立準備会）では、ボーイスカウトへの入団者を募っています。済美地区に住む小学三年～中学三年の男児ならだれでも参加できます。ボーイスカウトの精神を通して、大自然の中での野外活動をしたり、地域社会に還元奉仕する精神を養います。入団希望者は二月十日までに各町自治会長を通じ、西新屋町中村慶治自治連合会長（電話㉒三五四八番）へ。

母親教室

若妻と妊婦へ

母親教室が奈良保健所（西木辻八軒町、電話㉒六一七一番）と西奈良保健センター（登美ケ丘二丁目、電話㉓五九一一番）の両会場でつぎのように開かれます。受講者は若妻と妊婦で受講料は無料。希望者は住所・氏名・年齢・妊娠月数を書いて希望会場へ申し込んでください。

奈良保健所は定員五十人で午後一時～三時。西奈良保健センターは定員三十人で午後一時半～三時半。（日程カッコ内は西奈良保健センター分）。

3月5日（7日）「妊娠中のくらしかた」

3月12日（14日）「赤ちゃんの生活」

3月19日（20日）「お産のなりゆき」「赤ちゃんのおふろ」

3月26日（28日）「妊娠中のたべもの」

競争入札

指名願い

市舗装公社へ

五十年度に財団法人奈良市舗装公社が発注する建設工事等（舗装）および測量の委託業務について競争入札参加の資格をきめるための指名願いはつぎの要領で提出してください。提出の指名願いと添付書類は市に提出するものと同様式（一月十五日付「市民だより」参照）。

資格＝①建設業法による許可業者②測量法による登録業者▽受付期間＝二月十五日～同二十八日▽提出先＝財団法人奈良市舗装公社（南京終町五丁目三七七の七）。

市役所へのいろいろなご用は
電話24―三〇〇一～六番へ
◦苦情・要望・相談・問い合せ
◦戸籍謄本・付票・住民票の請求
ご遠慮なく
電話サービスセンターへ
お申し出ください

中国文化講座

今月ひらく

日中友好学院

昨年二月一日、奈良市と中国西安市とは友好都市を宣言、同十月には西安市友好代表団を奈良に迎え、友情の輪を広げてきました。奈良日中友好学院ではこれを記念して奈良市の後援のもと、つぎのように「中国文化講座」を開設、広く市民の参加を呼びかけています。

とき＝二月十四日～三月十四日、毎週金曜日午後六時半～同八時。▽ところ＝市内福智院町、日中友好会館▽内容＝大学教授による講演（中国の歴史、ことば、近況など）。▽申し込み＝二月十日までに電話かはがきで同学院（電話㉖八〇一九番）へ。▽定員＝先着三十人。▽会費＝五百円。

歯

成人の検診

指導と相談も

市が行なっている成人の歯科検診が次の日程で行われます。これで今年度の日程は全部終わります。

2月20日（木）伏見中学校区＝伏見連絡所

2月27日（木）春日中学校区＝高円公民館

3月13日（木）平城西中学校区＝平城第二団地（管理事務所）

3月20日（木）若草中学校区＝若草公民館

時間はいずれも午後一時半～同二時半。受診者は原則として三十五歳～六十四歳の方（婦人は年齢制限なし）で、検診のほか映画・スライド上映、歯のみがき方指導、懇談など。費用は無料。

3歳児検診

三歳児検診をつぎの日程で行ないます。今回受けてもらうのは昭和四十六年四月二日～同年十月一日生まれで、検診場所は西奈良保健センター（登美ケ丘二丁目）。

小児科医による診察のほか知能テスト、歯科検診、育児相談、身長・体重・胸囲の測定、検尿を行ないます。検診は無料。時間はいずれも午前九時～十一時と午後一時～三時の二回。母子手帳をお忘れなく。

▽2月6日（木）鶴舞校区
▽2月13日（木）登美ケ丘A～D号館
▽2月20日（木）登美ケ丘E～F号館とその他
▽2月27日（木）富雄北校区
▽3月6日（木）青和校区

ゴミ収集

祝日の振替え収集

二月十一日（火）「建国記念日」のゴミ収集は休みます。この日に当たる区域は翌十二日（水）に振替え収集します。